

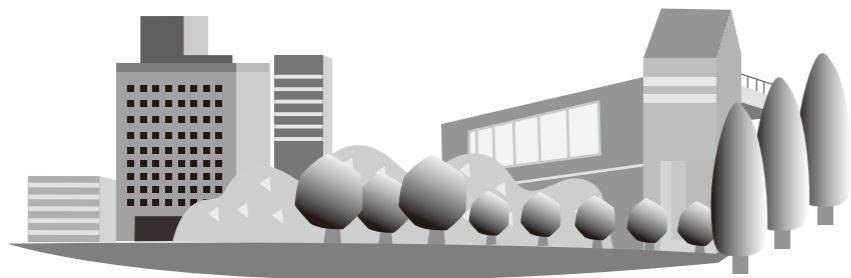
世の中では、人は物を売ったり、いろいろなサービスを提供することでその代金としてお金をもらっています。例えば、皆さんはお店で物を買ったり、カットハウスで髪の毛を切ってもらったりすると、買った物やサービスの代金としてお金を払います。そして、お店の人は「ありがとうございます」といってお礼を言われますね。その逆に、お客さんから「ありがとうございます」とお礼を言われる職業があるなんて、信じられますか？ 私の生業としている医者という仕事は、普通に仕事をしていてもお客さん（患者さん）からしばしば感謝の言葉がいただける、そんなありがたい職業です。というわけで、人に喜んでいただいて自分もうれしくなる、お医者さんと医療の仕事について話してみたいと思います。



1. 医師になるには

大学の医学部に入学して卒業し、医師国家試験に合格する必要があります。大学には、国公立大学と私立大学があり、それぞれに総合大学と医学部だけの単科大学があり、6年間の修学期間が義務づけられています。個人的な意見ですが、大学生活を楽しむという点では総合大学に一日の長があるように思います。総合大学では、カリキュラムによっては教養課程の時に他の学部のある分野の授業を受講したり、本学のクラブに入部して学生生活を楽しむことも可能です。なかには体育会の本格的なクラブに入って4年間活躍するような猛者もいます。入学後

の勉強については、医学部といっても学業が特に厳しいわけではありません。受験では医学部は理系になっていますが、理系の頭脳より、膨大な知識をひたすら暗記する記憶力が重要だったという印象があります。理系の勉強が苦手な人でも、受験勉強さえクリアすれば入学後は問題ないでしょう。大学のカリキュラムによっても異なりますが、4年頃に臨床実習が始まります。これは、大学病院や実習協力病院で、指導医のもとに実際の診療を学ぶものです。自分が内科系か外科系か、この時に実感することが多いようです。



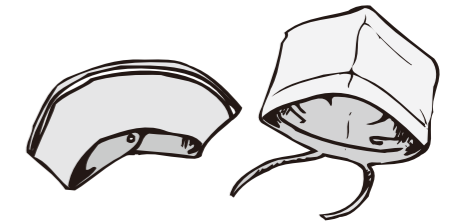
2. 医学部を卒業すると

医学修士という資格がもらえますが、そのままでは医師にはなれません。ほとんどの人が医師国家試験を受けて医師免許の獲得を目指します。医師国家試験は選抜試験でなく資格試験であるため、合格率は90%前後と大学入学試験ほどは狭き門ではありません。

医師免許を取得後の進路は、基礎医学と臨床医学に分かれます。基礎医学を志す人は研究室に所属し、臨床医学を志す人は医療施設で卒後研修を受けます。私は臨床医の道を選択したので、今後は自分の経験をもとに、臨床医学の進路を中心に話していきたいと思います。

当たり前のことですが、医師免許取得後すぐに医療行為が出来るわけではありません。私達の頃は、“先輩のあとをついて回って、技術と知識は盗んで身につける”といった風潮が色濃く残っていた時代でした。最近は臨床研修制度が整備され、新人医師は2年間で内科、外科と救急医療、産婦人科、小児科、精神科で研修を受けることが義務付けられています（今後臨床研修の期間が1年間に短縮される可能性があります）。

2年間の研修終了後は自分の選択した診療科で働きながら経験を積んでいきます。自分が何科の医者になるかを決めるのは誰でも迷うところですが、医療の仕事は、どの診療科や分野を選んでも病気や障害で苦しんでいる人がおられ、治療を行う医師を必要としています。目の前におられる患者さんをいかに上手く治療して満足していただくか、という点を主眼にして診療に従事していくと、自然と自分の専門領域が決まってくると思います。新人医師にとっては、若いときにどんな先輩に指導してもらおうかで自分の運命（診療や研究に対するスタイルやスタンス、学閥関係など）が決まってしまうということもざらではありません。医師という職業は、ある意味「徒弟制度のなかで師匠や先輩について修行して一人前になっていく職人」といった面があるのは否めません。



3. 3つの仕事、臨床、研究、教育について

私達は、意識するとせざるに関わらず、臨床、研究、教育の3つの要素を自分の中で優先順位をつけて仕事をしています。臨床とは患者さんの診療を行うことで、仕事の中心となります。しかし私達の仕事は診療だけをしていけばいいわけではなく、研究活動を行う事と後輩医師や医療スタッフを教育する事も重要な職務と考えられています。研究に専従したい人は大学院に進学する事が出来ます。大学院では4年間で学位論文を作成し、博士号を取得します。大学院に入学

しなくても、臨床医として診療しながら研究をして論文を発表し、大学の教授会で認められれば博士号を取得する事が可能です。博士号を取ると医学博士の称号を得ることが出来ます。



医師という仕事 一下

匿名

私は公立病院の勤務医で、整形外科を専門としています。整形外科とは骨、関節、脊椎、神経、筋肉などの運動器の外傷(けが)や疾患(病気)の診療を行うところです。

病院での仕事の内容は、診察室で患者さんを診療する外来業務、入院患者さんの治療を行う病棟業務、医療的な検査や処置、手術が主な業務です。そのほかに、当直、市民検診、在宅医療患者の往診、身体障害者認定、介護保険の主治医意見書作成や各種医療保険の書類作成、など多岐にわたっています。また、所属する大学医局のリウマチグループの一員として研究活動に参加しています。さらに、地域の研究会で研究発表をしたり、医師会で学術講演会の講師を依頼されることもあります。また、日本整形外科学会の専門医および日本リウマチ学会の専門医として

学術集会や講演会に参加するといった活動をしています。立場としては、勤務する病院の職員、大学医局の医局員、医師会の会員、所属する学会の会員、といった複数の立場で仕事をしていると言えるでしょう。業務内容としては頭脳労働が多いように見えますが、実際は体力と健康が重要な、肉体労働的な要素が多い事を日々実感しています。この点では、学生時代にスポーツをして体を鍛えて

いたことが役立っている
と思います。私達の
仕事は、しんどいこ
とも多いけれど日々
学ぶことがあり、
感動もある職業
だと思っています。



れていても、逆に
こちらが癒されるような気
さえもします。まさしく、人
に喜んでいただいて自分
もうれくなる職業だ、と実
感します。皆さんも、こんな
素晴らしい職場である医
療現場を自分の働く場に
選んでみませんか。